

小町通りはどんなところか まちの人の声 をきいてください



昭和の頃の建物がわずかに残っていて懐かしい



ずいぶん変わったが昔から続いているお店もある



お店がたくさんあり、ぶらぶら歩いて楽しい

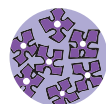


朝と夜は静か、昼は賑やかでメリハリがある通り

八幡宮への近道



道幅が歩くのにちょうど良い



観光客が多い



電線地中化で空が広く感じられる



昔は風情があり、おっとりとしたまちだった



景観への取り組み

鎌倉市はこれまで小町通りの景観をより良くするためにさまざまな取り組みを行ってきました。

昭和 40 年代 古都景域内の高さ 15m 以下、屋上広告物の非設置の行政指導がはじまる

平成 10 年代 屋外広告物（看板）・自動販売機の色誘導はじまる

平成 20 年 景観地区の指定、景観地区内の高さ 15m・色彩の法的規制はじまる

平成 25 年 小町通りの電柱地中化完成

令和 2 年 あなたがつくる「小町通りの景観」策定

建築主・事業主・設計者など みなさんへ

1. 通りをよく観察し、鎌倉の商業地としての「趣きあるまち並み」を意識して、質の高い計画としてください。
2. 訪れる人が心地よく歩けるように工夫してください。
3. 小町通りに隣接する住環境を守るよう配慮してください。

◆策定支援 鎌倉市景観整備機構（一社）ひと・まち・鎌倉ネットワーク

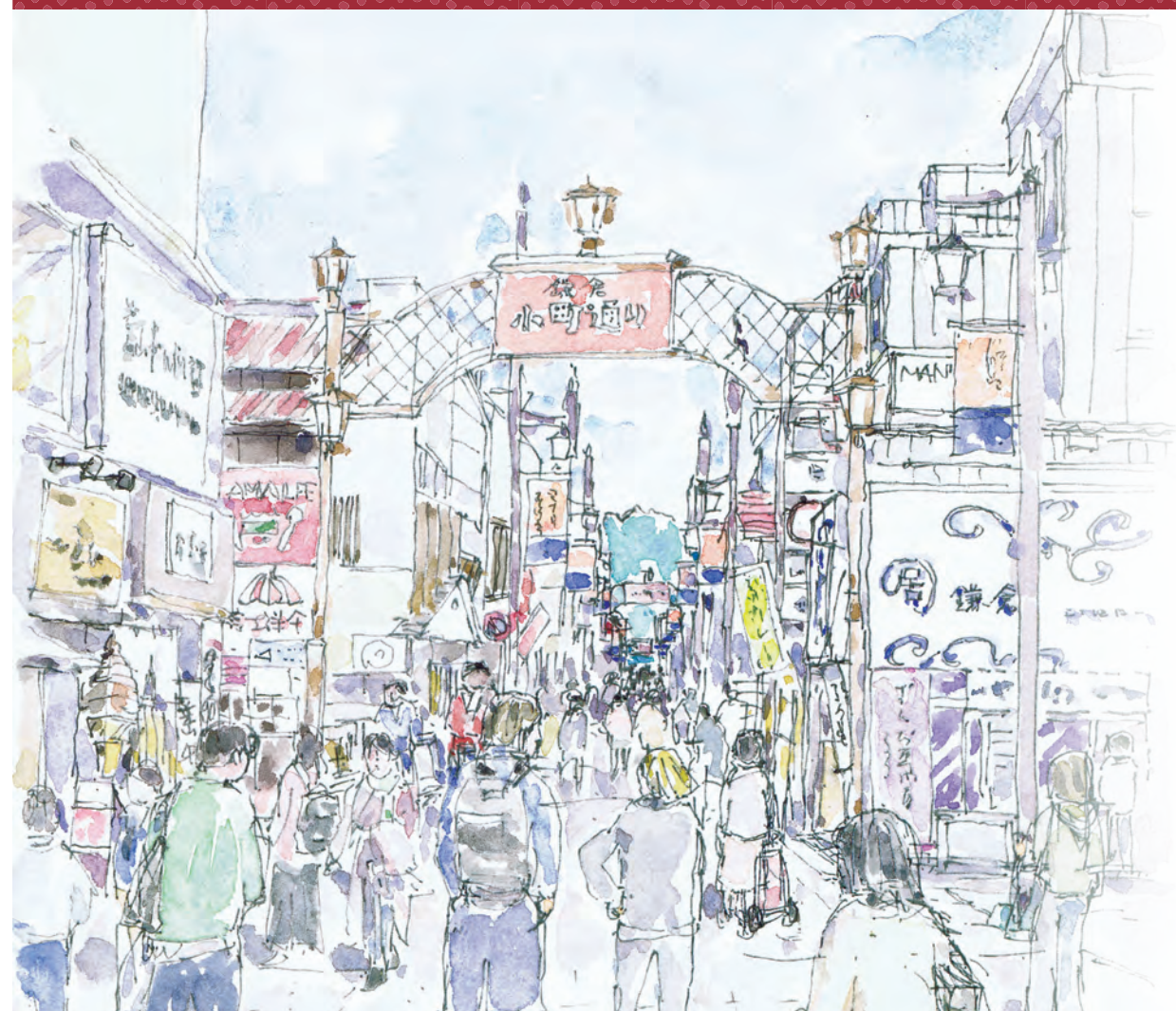
◆問い合わせ 〒248-8686 鎌倉市御成町 18 番 10 号 鎌倉市役所 都市景観課

電話：0467-61-3477 ファックス：0467-23-8700

メール：keikan@city.kamakura.kanagawa.jp



令和 2 年（2020 年）4 月発行



あなたがつくる

「小町通りの景観」

「みんなに愛され心地よく過ごせる
にぎわいのあるまちに」

小町通りは昭和に発展したヒューマンスケールの商店が軒を連ね、市民や来訪者に親しまれています。小町通りの景観は、そこに暮らす人々や商いをする人々のおもてなしの心に支えられてきました。そして、昭和の面影と周辺の自然環境もふまえ、にぎわいや親しみやすさの中にも「品の良さ」が求められています。

ここに、まち並みの作法を示し、みんなで知恵を出し合いながら、より良い景観を創造していきたいと考えています。



■小町通りとは

小町通りは、かつては日常を支える商店街でしたが、近年では鎌倉観光のメインストリートとして注目を集め大変にぎわっています。

■まちの特色をつかむ

小町通りを歩いてまちの特色をつかみ、計画の手がかりとしてください。



鎌倉駅東口から約 350 m までは鎌倉小町商店会がある商業地域、その先は第一種中高層住居専用地域ですが、近年は店舗が増えています。

ここでは連続する景観として鎌倉駅前から「鉄の井」までを一体として考えます。

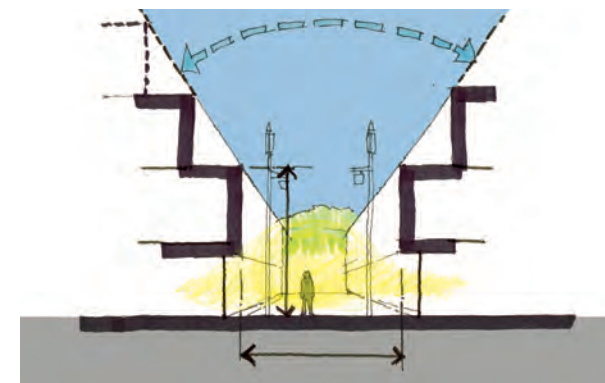
■まち並みの作法を知る

小町通りにふさわしい建物とはどんなものか考えてみましょう。



◆まち並みのスケールとリズム

建物のスケール感や間口のリズムはまち並みの要素です。周囲の建物との開口の幅や高さの調和を意識してください。



◆歩行者の目線に配慮した高さとし

2 階建て程度の商店が並び、背景の山並みの眺望が保たれています。建物の高さや形は眺望に配慮してください。



◆看板にも趣き

看板や自動販売機・屋外設備機器等も景観の一部。色・位置・大きさも重要です。趣きや周辺環境を大切にしてください。



◆路地は鎌倉の象徴

建物と道が一体となった路地は鎌倉の風景を象徴するものです。回遊性や通り抜けを取り入れ、まちに開く工夫をしてください。



◆ゆとりのある空間としつらえ

歩行者の印象を左右する、店先のゆとりある空間、ひさし・植栽・内部の見え方などを工夫してください。



◆地域にふさわしい質の高いデザインと素材

伝統とは、「小町通りらしさ」「鎌倉らしさ」とは何でしょう。素材やデザインの質の高さを意識してください。